

## 「第 27 回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：平成30年10月22日（月） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市職員厚生会館第4研修室
- 3 出席者：高橋弘二座長、桐谷副座長、市下構成員、内船構成員、高久構成員、高橋直人構成員、堀井真構成員、堀井靖世構成員、米田構成員、（計9名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木係長、大場主任、相澤）
- 5 傍聴者：なし

### ◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 報告
  - (1) 平成30年度教員向け人材育成講座の実施結果について
  - (2) 平成30年度相互交流を生かした人材育成講座の開催について
- 3 議題
  - (1) 環境教育・環境学習マスタープランの進行管理について
  - (2) 平成31年度教員向け人材育成講座について
  - (3) 環境教育指導者等派遣事業について

### ◆ 報告 1 平成 30 年度教員向け人材育成講座の実施結果について

〔事務局からの説明〕

概要、講座概略については、資料1を参照

参加者からのご意見にもあるとおり概ね好評であった。また、この研修で行った内容をシリーズ化して他の学区でも開催してもらいたいとの感想もあった。講座の最後に行った環境教育・環境学習事業の紹介がきっかけとなり、後日、自然観察会の申込があった。

#### 高橋座長

参加者は定員に対して少なかったが、参加された教員からは好評だったようだ。  
今の報告に対してご質問やご意見はあるか。

#### 内船構成員

参加された先生は逸見小学区周辺の方だったのか。

#### 高橋座長

事務局で把握しているか。

#### 事務局（大場主任）

逸見小学区の先生に参加いただきたいと思っていたが、実際には参加はなかった。  
結果としては、色々な地域の先生方に参加いただいた。

#### 高橋座長

西逸見ほたるの里までの途中の道は少し大変だが、弱音を吐かれた方はいたか。

## 事務局（大場主任）

特にいなかった。

## 高橋座長

他によろしいか。次の報告に移らせていただく。

### ◆報告2 平成30年度相互交流を生かした人材育成講座の開催について

〔事務局からの説明〕

第26回会議で今年度の見学先として候補にあがった「港湾空港技術研究所」との調整を行った結果、平成30年11月20日（火）の開催が決定したので報告する。

## 高橋座長

今の説明に関して質問はあるか。

見学場所が「港湾空港技術研究所」とハード部分の名前になっているが、ここは日本の海洋に関する先端的なソフト部分の研究も行われている。

講演内容はブルーカーボンとのことなので興味がある方は是非参加していただきたい。

## 桐谷副座長

港湾空港技術研究所には別件で見学・講演の依頼をしたいと思って色々調べていたが、先日、担当者に確認したところ資料に掲載の「大規模波動地盤総合水路」（津波の実験設備）は改修中でしばらく実験の様子を見られないと話していたので、ここを見学コースにするのであれば確認が必要かと思う。

## 事務局（鈴木係長）

担当者と打ち合わせをしている中で、改修中との話はなかった。

## 桐谷副座長

先週伺った際にそのように話していた。

## 事務局（鈴木係長）

事務局で確認する。

### ◆議題1 環境教育・環境学習マスタープランの進行管理について

〔事務局からの説明〕

「環境教育・環境学習マスタープラン」は、上位計画である「横須賀市環境基本計画」の施策と併せて進行管理し、公表していくこととしている。

現在、年次報告書として作成・公表に向けて作業を進めているので、その状況について説明する。

## 高橋座長

年次報告書として公表する資料について、ご意見やご質問はあるか。

ないようなので、もしも後日ご意見等があれば事務局へお願いしたい。

## ◆議題2 平成31年度教員向け人材育成講座について

〔事務局からの説明〕

これまでの「教員向け人材育成講座」の開催実績別紙1は、「自然環境」分野が1回、「廃棄物」分野と「地球温暖化・省エネ」分野が各1回となっているが、学校教育の現場で求められる分野等があればご意見を伺いたい。

### 高橋座長

ご意見やご質問はあるか。

### 事務局（鈴木係長）

本日欠席の高橋正明構成員から事前にいただいたご意見が2点あるので紹介したい。

1点目は、今年度開催した学区の自然を教材としたフィールドワークについては、学区を変えて引き続き行っていく。

2点目は、パリ協定関係の講座で、パリ協定の概要、パリ協定下での将来を見据えた私たちの取るべき行動について、昨年度の施設見学で国立環境研究所に行った際に江守氏にお話ししていただいたので、江守氏を講師としてワークショップ形式で討議する。

理由は、1点目については、参加者のシリーズ化してもらいたいとの意見が印象的であり、高度な気付きや触発を受けたとあること。

2点目については、最近の新聞報道で「温暖化対策 時間との闘い」、「気温2度上昇で地球が“温室化” 上昇連鎖の恐れ」、「極度干ばつ1.1億人 洪水2倍 気温1.5度上昇 IPCC警告」など温暖化の脅威と対策に残された時間の少なさに危機を感じる論調が相次いでいること。

また、高橋正明構成員が所属している横須賀市地球温暖化対策地域協議会主催の「環境体験教室」に参加した小学生の保護者のパリ協定認知度は10%程度であり、地球温暖化の進行に対する世界の危機感とのギャップ解消や温暖化対策の実施促進に向けて、是非行っていただきたいとの意見であった。

### 高橋座長

高橋正明構成員からのご意見と今までの実績を踏まえて、今後どのようなことを進めていくのか、ご意見があれば伺いたい。

### 高橋直人構成員

実際に逸見地区を歩かれて、色々な気付きや発見があったと書かれている先生もいるので、このような機会は必要だと思う。

高橋正明構成員のご意見にある「学区を変えて引き続き行う」ことは良いと思う反面、今回、講義を行った逸見コミュニティセンターは駐車場がない施設である。

学校の先生は車通勤の方も多く、遠方から来る場合は不便だったのではないかと思った。

同じ逸見地区であってもウェルシティであれば、会場使用料はかかるが有料駐車場があり、もう少し申し込みがあったかもしれない。交通面も考えて会場を選ぶと良いと思う。

### 高橋座長

逸見コミュニティセンターに駐車場はないのか。

#### 高橋直人構成員

2、3台分はあるかと思う。

#### 高橋座長

これまでは学校で行っていたのではないか。

#### 事務局（鈴木係長）

モデル事業は学校で行っているが、今回、講師のNPO法人三浦半島生物多様性保全の  
天白氏に相談したところ、逸見小学区はコンパクトで回りやすいとのことだった。

#### 高橋座長

逸見小学校は使用できなかったのか。

#### 事務局（鈴木係長）

逸見小学校には確認していない。

会場を探している段階でウェルシティにも確認したが、不都合がありコミュニティセン  
ターとした。

#### 高橋座長

先生はコミュニティセンターよりも学校の方が行きやすいと思うので、次回はこの点も  
踏まえて計画に盛り込んでいただきたい。

他にご意見等はあるか。

#### 堀井靖世構成員

昨年度から市民協働モデル事業で「学区の自然を再発見 環境体験授業」として、市内  
の学校ごとの自然観察会のプログラムを作っているが、事業期間が3年間なので来年度で  
終了する。

学校ごとに自然環境をテーマにすることは、先生方も比較的取り組みやすいと思うが、  
地球温暖化は高学年のテーマになり少し狭まってくるかと思うので、実際に学校の教育現  
場では何が求められているかを教育委員会とも話をして進めていくと良いと思う。

市民協働モデル事業の終了後にどのように進めていくかについても併せて考えていくと  
良いと思う。

#### 高橋座長

市民協働モデル事業として行っている「学区の自然を再発見」は、先生方が自分の学区  
の環境教育として利用でき、年間6校分の申し込みができる。

これは児童を対象にしたものであるが、今回7月に開催したのは教員向けであり、色々  
な学区の先生に参加していただいた。

高橋正明構成員は、教員向けの人材育成講座をシリーズ化したらどうかとの提案だった。  
学校向けの市民協働モデル事業は今年度が2年目で来年度まで行われる。

引き続き、来年度の「環境教育・環境学習ラインナップ」にも掲載されると思うので、  
先生が自分の学校でも指導者を呼び、広く普及していくことを期待している。

### 桐谷構成員

先程、今年度の人材育成講座で逸見小学校の先生の参加はなかったとのことだったが、自分の学区内でせつかく良い機会があるのであれば、次に授業で生かすために是非参加したいと思うのではないかな。

参加がなかったのはそこまで必要としていないのか、または、別の用事があり参加できなかったのか、この部分は大事なところかなと思う。

このような機会ではなく、生徒が授業として受ける機会があるので、授業でダイレクトに行ってしまうえば良いと考えていることが多いのであれば、学校現場としてはそちらの方がありがたいとの分析もできると思うが、皆さんどのように思われるかな。

### 高橋座長

事務局いかがかな。

### 事務局（鈴木係長）

学校の先生方は忙しいと思うので、教育研究所の協力を得て学校の先生方のネットワークを利用して、夏休みに実施するこの講座の参加者募集をお知らせはしている。

受け取る先生が自分の学区(逸見小学区)に関心をもって参加していただきたかったが、そこに至らなかった理由を把握するのは難しい。

今回は逸見小学校をモデルとしたが、全学区の先生方に総合的な学習の時間などに講師を呼んで授業ができることを体験してもらい、市内の色々な学校の先生方にも市民協働モデル事業を活用していただきたいというのが趣旨であり、仮に今年度に申込がなくても、来年度に「夏休みに受けた研修を自分のクラスでも総合的な学習の時間に行ってみたい」と思っていていただくきっかけになればと思っている。

### 堀井靖世構成員

その後、逸見小学校から市民協働モデル事業に申し込みがあり、授業を行ったのではないかな。

### 事務局（相澤）

3年生での申し込みがあり、先週実施したところである。

### 高橋直人構成員

逸見小学校は、昔は低学年の遠足などでよく塚山公園に行っていた。

最近は分からないが、実際に何度も行っている場所なので先生方も参加しなかったのかなもしれない。

### 堀井靖世構成員

学校の前に川があり、その川でアブラハヤを捕まえたとの報告を受けている。

### 高橋直人構成員

塚山公園保存会や県公園協会など周辺環境を守っている人がいるので、その活動に遭遇したのではないかなと思う。

### 事務局（松尾課長）

7月31日に教員向け人材育成講座を実施し、8月2日に逸見小学校から申し込みがあり、先週、モデル事業を実施した。

今後、逸見小学校の先生からその報告書が提出される際に何がきっかけになったのか、また、このような人材育成講座があると良いかどうかについて確認したい。

また、事業の周知方法は色々あると思うが、今回は他の学区の先生も来ていただいたので広く申込があるかもしれないし、ひとつのきっかけになっているかとも思う。

来年度のシリーズ化も含めて事務局で検討していきたい。

### 桐谷構成員

今話を伺うと、7月に実施した人材育成講座とモデル事業が繋がっているのが分かるので、人材育成講座がきっかけになっているのであればこの展開は良いと思う。

先生が持ち帰って自分で授業を行う形だけではなく、他の講座を上手く使っていただけるような案内をすると、もっと広がりが出てくる。

### 事務局（松尾課長）

こちらからの周知方法もあり、学校の先生の捉え方もあると思うが、ひとつのきっかけになっていけば、今すぐではなくても次に繋がっていくと考えている。

### 高橋座長

逸見小学校からは、昨年度も市民協働モデル事業の申込があったのか。

### 事務局（鈴木係長）

昨年度はない。市民協働モデル事業は3年間で各校1回の実施となっている。

### 高橋座長

各校1回というのは、市民協働モデル事業はできるだけ多くの学校でとの趣旨である。

### 事務局（鈴木係長）

堀井真構成員に伺いたいが、事務局では学校現場の総合的な学習の時間での「環境」といった場合に、どんな分野を求めているのか分からない部分もあり、結果的に自然環境分野が多くなっているかと思うが、アドバイスがあればいただきたい。

### 堀井真構成員

話を受けた時に「理科」の印象を強く受けた。というのは、身の回りの自然を扱う時に一番授業に直結するのは理科だと思う。

身近な自然は、今、指導要領を改定する中で大きく言われている部分であり、その面では現場の先生は活用しやすいと思ったが、自分たちの地域にどのような自然があるのか分かる研修になっているということをどれだけ先生に周知されたのかが疑問である。

「何となく環境のことが分かる」、「フィールドワークをする」段階の情報でストップしているのかと思った。

「自分たちの地域」、「横須賀の地域」というところまで、この逸見小学校の先生も含め

て分かっていたのか疑問である。

総合的な学習の時間の作り方、やり方は学校によって様々なので一概には言えないが、環境の部分ではエコなどが飛びつきやすいものの昔からあり新鮮さがないような気がする。

環境教育の中で、どのような総合の取組ができるのかを現場の先生も掴めていないのが現状かと思う。

### 市下構成員

自然環境についての参加率が高いのは、総合的な学習の時間以外にも理科や生活科など色々な掴み方があるため先生たちも参加しやすいと感じる。

例えば、「廃棄物」であれば総合的な学習の時間や4年生の社会科、「エネルギー」は総合的な学習の時間、5年生の社会科、6年生の理科と大分絞られてくると、先生の中では、明日の授業に何が使えるのかという点で一番人気があるが、環境教育・環境学習ネットワーク会議の趣旨から考えるとそのような研修とは違う気がする。

授業にできるというよりも、先生たちが環境について子どもたちにどのように考えていくのかという啓発的な内容になると良いと思う。

これに繋がっていくと聞くと先生たちの参加率も上がると思うが、そこで止まってしまう可能性があるのも、そこをきっかけにどれだけ広げていけるかが大事だと思う。

### 高橋座長

環境教育指導者等派遣事業で小学校に行っているが、依頼があるのは3年生、4年生で総合的な学習の時間に関係している。

「理科の…」「社会の…」となると、環境教育指導者に依頼はなく、むしろ水道局や資源循環部への依頼が多いと思う。

3年生で「学区を知ろう」とあるが、川があっても先生は川について分からないので環境教育指導者に依頼がくることが多く、授業のほとんどは3先生、4年生で、翌年、次の学年に引き継がれて、次の3年生、4年生から依頼がくることがある。

一度依頼があった学校から引き続き依頼があることが多く、新しい学校からの依頼が少ないので、これを広げていくために教育向け人材育成講座を行っているかと思う。

資源循環部ではごみの学習を多く行っているのではないかな。

### 高久構成員

4年生でごみの授業があるので、それに合わせて「リサイクルプラザ」を見学したり、学校に出向き「子どもごみ教室」を開催している。

### 事務局（松尾課長）

ごみについては、平成32年度に新しいごみの処分場が稼働する予定で、ごみの処理方法が変わってくるので、今後、資源循環部では町内会への説明会を行っていくと思うが、子どもたちには、今まで「燃せないごみ」が「燃せるごみ」になったりする。

ごみの削減目標などについても、一昨年に市のごみ処理基本計画を見直した。

今後、家庭ごみの分別方法が変わるので、子どもたちもより身近に感じると思う。

### 高橋座長

それは、新しい処分場の完成に合わせてということなのか。

### 事務局（松尾課長）

現時点では平成32年3月の稼働予定だが、その前に試行していく予定であるため、この先1～2年は子どもたちにごみの処分方法の変更などを伝えていくことになる。

### 高橋座長

それに合わせて、アィクルマイスターは再現しないか。

### 高久構成員

そこまでは考えていない。

今回は「燃せる」と「不燃」が変わるだけなので、アィクルにはあまり関係がない。

### 高橋座長

博物館へは直接学校からの依頼はあるのか。

### 内船構成員

ここ数年は、馬堀自然教育園近隣の小学校である浦賀小学校から依頼がくる。

総合学習の時間で「春夏秋冬」の各季節に1回ずつ、教育園の中の自然を調べるとのことで、植物と動物の学習を行っている事例はある。

1つのフィールドについて四季を通じて調べているが、学校で扱っている理科のテーマと合致しているのではないか。

### 高橋座長

馬堀自然教育園の場合、博物館から出向くのか。

### 内船構成員

馬堀自然教育園にもスタッフはいるが、主に施設管理を行っているので場合によっては学芸員が博物館本館から出向くことになる。

ちなみに、馬堀自然教育園は来年2019年に開園60周年を迎えるので、特別展示を開き、馬堀自然教育園の歴史と自然について多くの方に知っていただく機会を持ちたいと考えている。

### 高橋座長

各学校の先生方が自分の学区の周りの自然観察に注目されて、子どもたちの環境教育の場として取り上げていただくために、環境教育指導者等派遣事業や市民協働モデル事業があるので、こうした事業が普及していけば良いと思う。

その他あるか。

### 内船構成員

学区を扱ったフィールドワークについて色々な議論を伺い考えたが、逸見小学区の先生



の参加はなかったようだが、それは逆に喜ばしい部分でもある。

市内の先生はキャリアの中で色々な学校を行き来する中、横須賀市全域の様々な特徴的な環境を知ること、新しい赴任先の環境に対して、あそこは違うとの視点で子どもたちに教えることができると考えると、これがシリーズ化することで、市内の先生方が横須賀市の多様な自然を子どもたちに教えていくスキルアップに繋がっていくのであれば、それも一つの方向性として面白いのではないか。

### 高橋座長

横須賀も自然が豊かとは言っているが、東京湾側の奥部分、中央部分、西地区と全然違った環境があり、それぞれの学区で色々な違いがあるが、学区の自然と言う意味でそれを調べる方法が同じ方向で進められると思うので、是非シリーズ化で進めると良いと思う。

議題2について色々なご意見が出たが、事務局が今後進めるうえでご意見を参考にさせていただきたい。

### ◆議題3 環境教育指導者等派遣事業について

[事務局からの説明]

第26回会議でご意見を伺い、環境教育指導者等派遣事業の担い手を育てることを目的とした「環境教育指導者育成事業(例)」を実施することについてご意見を伺いたい。

### 高橋座長

今回の趣旨は資料5に記載の「環境カウンセラー、環境学習リーダー、アィクルマイスターまたは環境保全活動等の経験者で、知識や経験及び指導力等について先に掲げる者と同等であると環境企画課長が認める者」が指導者になっているが、指導者をもう少し広く、実践を伴いあまり堅苦しくなく養成することについて、ご意見を伺いたい。

### 事務局(鈴木係長)

本日欠席の高橋正明構成員から事前にご意見をいただいているので紹介する。

環境教育指導者の増加策として、市域在住の環境関連の専門家、エキスパートをリストアップし指導者就任の依頼をしてはどうか。

理由としては、会議資料1の参加者のご意見を拝見し、高度な専門家による講習が参加者増の大きな力になると感じたこと。

以前から「環境カウンセラーや環境学習リーダー」と要件等には記載しているが、名簿を見ると全ての環境カウンセラーや環境学習リーダーに環境教育指導者になってもらいたいと依頼した経緯はないと思うので、こちらも併せて考えていただきたい。

### 高橋座長

「環境教育指導者」という言葉は堅いイメージがあるかと思う。

環境教育指導者は個人になっているが、最近は企業が施設見学を兼ねて環境教育を行う動きや活発に行っている企業もあるので、指導者として市内企業の方々から行う環境教育といったテーマがあっても良いのではないか。

桐谷副座長いかがか。

### 桐谷副座長

個人ではなく企業や団体も教育などの機会が提供できる形をこれから増やしていければ良いと思う。

### 高橋座長

学校から環境企画課へ企業を紹介してもらいたいとの依頼はこれまであったか。

### 事務局（鈴木係長）

昨年度、桐谷副座長にご協力をいただき、鶴久保小学校が「日産自動車 わくわくエコスクール」を利用し、その後、日産自動車側から教育委員会に声を掛けていただき複数校で実施したと聞いているが、事業者を活用したいとの相談を受けたことはない。

### 高橋座長

「環境教育指導者等派遣事業テーマ一覧」と同様に市内事業者の一覧ができると活用が広がってくると思うが、市下構成員、「環境教育指導者」という言葉についていかがか。

### 市下構成員

堅いかと言えばそのように感じる。

### 高橋座長

よく使う言葉では「インストラクター」という言い方もある。

### 桐谷構成員

「指導する」というと少し上から目線の気がするので、もう少し身近な存在で一緒に考えるような立場の名前や活動でも良いかと思う。

### 高橋座長

指導者として行っている側は後者のように思っているが、言葉となると前者のようなイメージがあるかと思うが、事務局としていかがか。

### 事務局（鈴木係長）

事業としては環境教育指導者等派遣事業として行っているが、親しみやすいように「よこすか環境教室」というサブタイトルを付けている。

### 高橋座長

それは4～5年前からか。

### 事務局（鈴木係長）

平成27年度からで、私たちが「指導者」や「補助指導者」と呼んでいても子どもたちには分からない話であり、学校に周知する際には「指導者」ではなく「環境のエキスパート」など工夫しながら分かりやすい言葉を使っていく努力はしていきたい。

## 高橋座長

「資料5 図1 環境教育指導者等登録数・派遣実績の推移」を見ると、平成26年度から実績が右肩下がりになっている。

学校教育の指導方針が変わり、ゆとり教育が見直された影響があるかと思うがいかがか。

## 市下構成員

環境教育は、総合的な学習の時間になるのだが、「厳密にこれをやりなさい」というものではなく、「環境について、うちの学校ではこの学年で学習しましょう」という学校もあれば、これは市外の例だが、先進的に総合的な学習の時間を研究している学校はクラスで総合的な学習の時間を行っている。

子どもたちの中で生まれた課題について追及していくが、そこに環境が入らない可能性もある。

カリキュラム上、環境教育を行うということであれば課題があるのかもしれないが、担任がクラスの総合的な学習の時間を経営していく中で環境を扱うことになり、そこで初めて利用するかしないかということになるので、環境の課題ができていないようであれば周知が必要になると思う。

## 桐谷副座長

企業側からの視点では、今や環境は当たり前であり、改めて環境と言わない雰囲気は弊社だけではなくグローバルにそうだと思う。

ヨーロッパや中国でも自分たちの住んでいる環境あるいはそれに係る周辺の国であったり、例えば、サプライチェーンと言って車を一台作るのにしてもオーストラリアやアフリカなど色々な国から材料を持ってきて作っていて、そのような環境も含めて持続可能な環境を維持していかなければ成り立たない。

それを声高に今更言う時代ではなく当たり前であるところまで来ていると思っている。

そのように見た時に、理想論にはなるが、授業の中で環境を考えていくのは当たり前であり、先生方もそれが自然に取り込めたら一番良い。

まだ、環境のこれをやろうという形の物が多い気がする。

では、どのようにしたら良いかというアイデアはないが、そのような視点があっても良いし、もっとと自然体で環境に取り組めるような仕組みや取り組み方にしたらいかがか。

所属している会社からするとそのような印象がある。

## 高橋座長

その他いかがか。

特になければ、今いただいた意見を参考に環境教育指導者等派遣事業を活発化するように事務局で検討してもらいたい。

以上をもって本日の議題は終了するが、他にあるか。

## 内船構成員

配付したチラシについて説明したい。

博物館で7月末から11月4日まで特別展示「探検！スズメバチと身近な昆虫の世界」を開催している。

今まで博物館で昆虫図鑑がないと言われ、今回特別展示に合わせ図鑑を作る機会が持てたので皆さんに紹介したい。

「身近な昆虫 365」とあるが、実際は 471 種類紹介している。

見たことがある昆虫、見たことがない昆虫も色々載せてあり、写真は三浦半島で私が撮影したものである。

少なからず三浦半島で皆さんが活動する時に昆虫でお困りのことがあれば助けになるかと思いき周知させていただいた。

### **事務局（鈴木係長）**

博物館のみでの販売なのか。

### **内船構成員**

今の時点では、自然・人文博物館と天神島臨海自然教育園で、博物館職員が出先で手売りしているが、今後、市政情報コーナーなどでの販売も検討している。

### **◆その他 事務局から事務連絡**

#### **事務局（大場主任）**

1 点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば 10 月 29 日（月）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2 点目は、12 月発行予定の「よこすか E C O 通信第 31 号」について、環境学習講座のお知らせ欄に掲載する情報があれば、11 月末日までに事務局へご連絡をいただきたい。

3 点目は来年 1 月 26 日（土）に横須賀ベイサイドポケットにおいて「横須賀かんきょうフォーラム 2019」を開催する予定であり、会場でのパネルフロア展示やステージ発表団体を広報よこすか 11 月号で募集するので、各団体からの応募、他の団体への声掛けをお願いしたい。

#### **高橋座長**

以上をもって第 27 回ネットワーク会議を終了する。